

## 第374憲兵中隊、全米ポリスウィーク2024で殉職者を追悼 374th SFS honors the fallen in National Police Week 2024

June 3, 2024

By Staff Sgt. Taylor Slater  
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地で5月13日から16日、第374憲兵中隊が「全米ポリスウィーク2024」を開催した。

全米ポリスウィークは、世界中の空軍基地で毎年開催されている行事で、法執行機関関係者、遺族、市民が集って殉職した隊員に敬意を表すとともに、誇りや感謝の念と同志としての支え合いを育むものである。

第374憲兵中隊司令グレン・パウワックス中佐は、開会式の挨拶で一同に次のように述べた。「職務で殉職や負傷した英雄たちの無私の犠牲を振り返り、思いを馳せ、記憶に刻むためにここに集ってくれたことに感謝する。また現在、職務に就いている隊員の勇気を称える機会である」

ポリスウィークは、中隊司令主催の開会式で幕開けし、その後、5キロの追悼ラック・マーチ、キックボール・トーナメント、チームスポーツ、軍用犬訓練展示が行われた。

第374憲兵中隊基地防衛オペレーションセンター管理官ジェームズ・モレル上級空兵は、「彼らは、今歩いている道を切り開いてくれた。彼らの名誉を称える、実に誇り高い行事だ」と述べた。

全米ポリスウィークは、1962年にジョン・F・ケネディ大統領が、職務中に死亡または障害を負った連邦・州・市の警察官の犠牲と貢献に敬意を表するため、5月15日を警察官記念日と宣言したことに始まる。ケネディ大統領はまた、5月15日からの一週間をポリスウィークとし、米国民に奉仕する警察官の任務と責任を認識し感謝を表すことを宣言した。

第374憲兵中隊は5月16日に閉会式を行い、任務の重要性を改めて強調し、職務中に殉職した隊員を偲んだ。

在日米軍副憲兵隊長スティーブン・シーガル博士は、「我々の仕事は常に訓練と教育を必要とし、そして時に犠牲が伴うものだ。絶えず努力を続ける必要がある。我々が想像する以上に、人々の平穏な暮らしを守るための大切な役割を担っている」と述べた。

